

復興せんだい cha cha cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする助け合い、支え合いのための情報紙です。cha= care,help,act 発行：仙台市災害ボランティアセンター



◆写真：ボランティア活動希望の方が、希望する活動に手を挙げて意思表示をしています。この後、チームを組んでリーダーを決めたあと、手袋や作業道具を受け取り、被災者の支援に出かけます。若林区災害ボランティアセンターにて

被災現場で活動した災害ボランティアスタッフの声をお届けします。

●「一人暮らしの高齢者のお宅を片づけました」

人の役に立てたらな、という思いでボランティアセンターを訪れました。活動内容は、一人暮らしのお年寄りの家の片づけや掃除などをお手伝いしました。2日間続けて活動中です。おばあちゃんは涙を流してお礼を言ってくださり、さらにやる気になったところです。ボランティア活動をして、気分がすっきりしました。1週間くらい活動できればと思っています。

< 20歳代、団体職員、若林区災害ボラセン >

●「おばあさんの買い物の代行をしました」

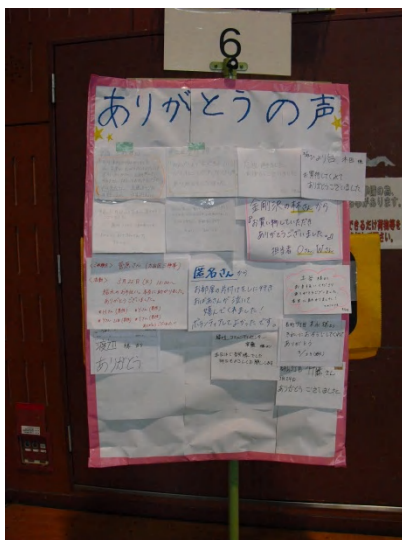
きっかけは地震の被害をテレビで見たことです。自分に回りにもボランティア活動に参加している友人が多く、自分も影響を受けました。活動では、郡山地区のあるマンションの部屋の片づけやお年寄りの買い物代行をしました。手伝ってみて感じたのは、小さな被害でも住んでいる方は不安に感じているのだな、ということです。被災された方の声を聴くことができいい経験になりました。買い物代行をしてきて買って来た品物を渡すと「これで一週間生きていけるわ」と。自分が手伝ったことの大きさを実感しました。

< 3名（高校生2、社会人1）、太白区災害ボラセン >

●「災害ボランティアセンターの受付ボランティアをしています」

ボランティアをしたい方が登録をされる際の受付のボランティア活動をしています。実際に被災者のお宅を訪れて片づけなどをする活動ではないですが、どんな形でも復興のために役立ちたいと思っています。登録に来ている方は学校が休みの高校生や大学生、また高齢者の方もおられます。74歳のおじいさんも何かしたいと来てくれました。

< 3名（高校生）、太白区災害ボラセン >



◆写真：災害ボランティアセンターには、ボランティアのみなさんへの感謝、ありがとうメッセージがぞくぞくと届いています。太白区災害ボランティアセンターにて

★編集後記：今後は、各区の災害ボランティアセンターにどんな依頼が来ているかなどもお伝えしていきます。ボランティアのみなさんの感想や声をぜひお寄せください。お待ちしております。

仙台市災害ボランティアセンター Eメールsendai-vc@poppy.ocn.ne.jp